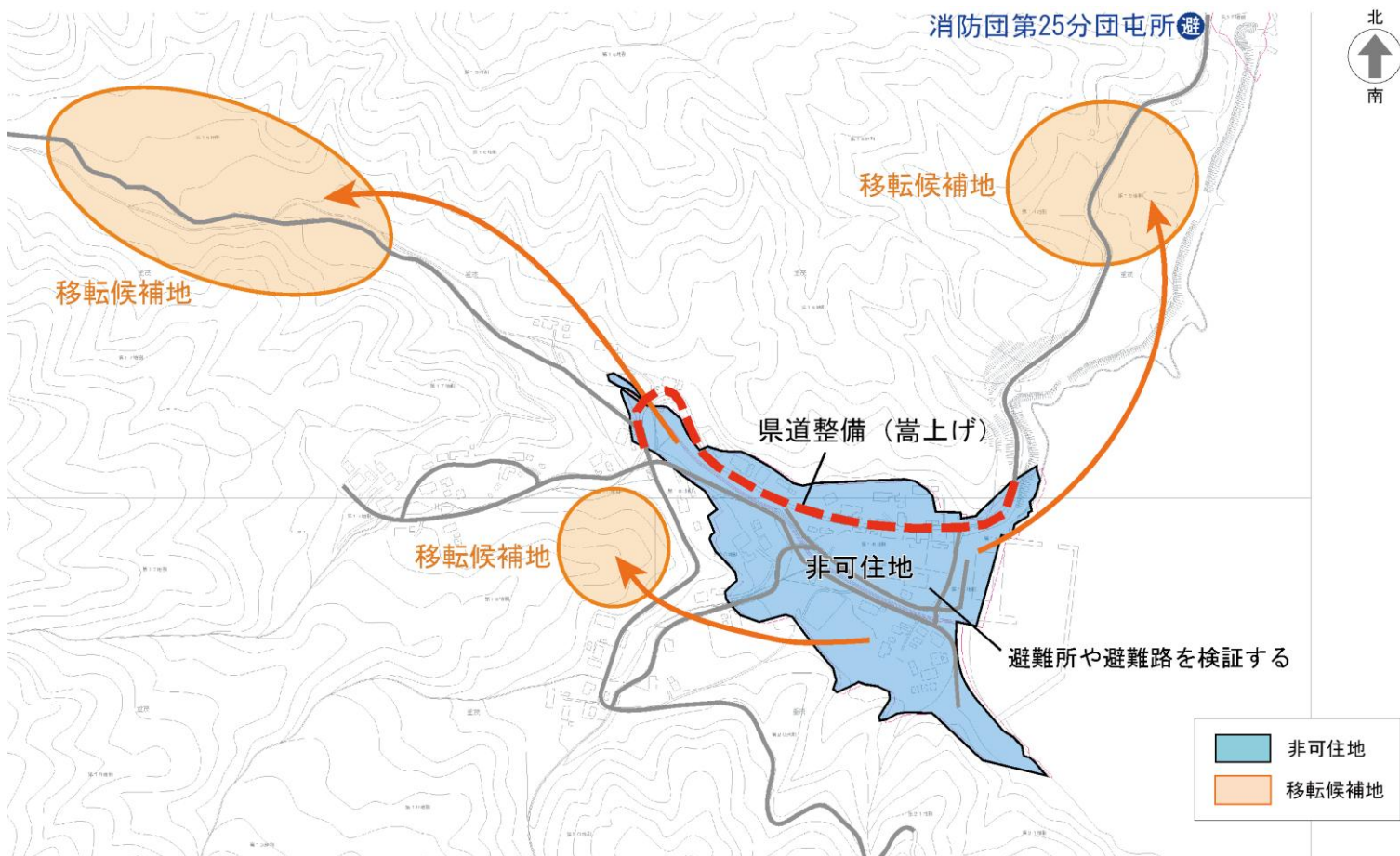


被害の状況	- 防潮堤がなく、地区一面に津波が押し寄せた。 - 浸水面積は7.6haにわたり、浸水高はTP+20~26mとなり、最大浸水深が25.3mに達した。 - 浸水区域内の建物（住宅以外も含む）の89.3%が流失または撤去となる被害を受けた。
復興まちづくりの考え方	- 災害時も孤立することのない自立した純漁村を形成する。 - 住む場所は津波被害を受けない安全な場所に確保する。 - 津波到来時も孤立することなく地域間を連絡できる道路を整備する。
復興パターン案	イメージ図 今回の浸水区域は非可住とし住宅を背後地の高台へ移転  特徴 - 津波とは無縁の場所に住むことができる。 - 住み慣れた場所に近いところへの移転を行う。 - 非可住地であっても漁業施設用地としての活用はできるが、住む場所と働く場所が分離することになる。